

いじめの問題への対応を図る学習 中学校（第3年）

取り上げた内容項目

公正・公平，社会正義

いじめの問題に関する生徒の実態から

「いじめは，どんな理由があってもいけない」という質問に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合は90%以上であり，道徳的価値についての理解は高いことがうかがえることから，いじめを行わないという態度の育成につなげていきたい。

社会 公民分野（9月）「基本的人権の尊重と平等権」

- ・「現代社会に残る差別」の中で社会的に残るいじめについて深く押さえる。

音楽（9月）「混声合唱の深まり」

- ・合唱コンクールに向けての合唱練習で，学級のまとまりや一人一人が認められる学級について意識して指導する。

国語（9月）「故郷」

- ・登場人物「閩土」が，当時の社会状況において，様々な立場から虐げられたことを理解させる。

○主 題 名：「いじめを許さぬ心」C－（11）

○実施時期：10月

○教 材 名：「卒業文集最後の二行」【「私たちの道徳」（中学校3年）P230～235】

○ね ら い：誰に対しても公正・公平に接し，差別や偏見のない社会の実現に努める。

段階	学習活動	主な発問等
導 入	1 学校祭の取組の写真を 見て，楽しかった活動を 想起する。	○先月行われた学校祭の反省アンケートでは，たくさんの方が楽しかったと記入しました。学校祭だけでなく，毎日の学校生活も楽しいといいですね。
	2 各教科で学習した，いじめに関わる内容を振り返る。	○社会では「現代社会に残る差別」を，国語の「故郷」では当時社会にいじめられた主人公，閩土について学習しました。 ○今月は旭川市のいじめ・非行防止強調月間です。そこで今日はいじめに関わる内容を考えましょう。
展 開	差別や偏見のない社会とは，どんな社会か考えよう。	
	3 読み物資料を読み，「私」の心情を自分との関わりで類推する。	○「私」は，がく然を乗り越えて目の前が真っ白になり，同時に真っ黒になったのに，臆することなく答えたのはなぜでしょうか。 (予想される生徒の発言) ・自分がカンニングしたことがばれるとまずい。 ・このまま黙っていても分からない。

「特別の教科 道徳」の趣旨を踏まえた指導のポイント

◆具体的な写真やアンケートを提示することにより，生徒にイメージをもたせ，本時で学習する内容項目に対する関心を高めます。

◆学校祭で楽しく活動したことを思い出させるとともに，各教科で学んだいじめに関わる内容を想起させます。

◆本資料では，語り手の「私」の心情を類推させることで，いじめに関して，道徳的価値の理解を深めます。

段階	学習活動	主な発問等
展 開		<p>○「めぐせえどおもわねえのか。」と胸を反らせた「私」のことをどう思いますか。</p> <p>(予想される生徒の発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを棚にあげてどうしようもない。 ・自分も弱いので正直に言えないかも。 <p>○最後の二行を読んだときに「私」はどんなことを思ったでしょうか。</p> <p>(予想される生徒の発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・T子さんに謝っても謝りきれぬものでない。 ・なぜあんなことをしてしまったのだろう。
		<p>あなたが「私」の立場だったらどのようにできるでしょうか。</p> <p>(予想される生徒の発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分も弱い人間なので、「私」と同じようになってしまうかもしれない。 ・最初の嫌がらせを止めに入りたい。
	4 本時の感想を書き、いじめ撲滅メッセージカードに記入する。	<p>今日の授業でどんなことを考えましたか。考えたことをもとに、メッセージカードに記入しましょう。</p> <p>(予想される生徒の発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめを見たときに、見過ごさないようにしていきたい。
終 末	5 教師の説話を聞く。	○その後の筆者について、補足説明を行う。

中心的な発問

◆登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考えることにより、道徳的価値の理解を深めます。

人間としての生き方について考えさせる発問

◆本時の感想やメッセージカードに記入することで、実践への意欲化を図ります。

特別活動（10月）「いじめ撲滅運動」
 ・全校集会で生徒会から「いじめ撲滅」宣言を行う。

保健体育（10月～11月）
 「バスケットボール」
 「バレーボール」
 ・チームで活動する中で、全員が楽しく活動できるように指導する。

美術（11月）「今を生きるあなたへ」
 ・自画像の鑑賞を通して、希望に満ちた未来が偏見や差別のない社会の上に成り立っていることを意識させる。

（授業づくりのポイント②）

いじめの問題への対応を図ることをねらった授業においては、自分はどうすべきか、自分に何ができるかを判断し、そのことを実行する手立てを考え、実践できるようにしていくなどの改善を図ることが大切です。